

病児向けグッズで「元気や心の安らぎを」 神戸で展示販売

2020/10/9 11:30 | 日本経済新聞 電子版

医療器具を包むかわいらしいカバー、耳にかけずに着けられるマスク——。病気や障害のある子ども向けに作られたケア用品について広く知ってもらうための展示販売が9日、神戸市内で始まった。関係者は「闘病中の子どもをグッズで元気づけることの大切さを知ってほしい」と話す。

企画したのは、小児白血病になった長男の看病経験を持つ石嶋瑞穂さん（42）。石嶋さんは長男が入院中、病院からカテーテル（医療用細管）のカバーを自前で用意するよう求められたが「市販されておらず、入院の付き添いで作る時間もなかった」（石嶋さん）。

友人に相談したところ、有名ブランドの生地で作ってくれた。ストレスで不機嫌だった長男は喜び、周囲の人に見せて自慢した。「見た目にかわった小物で病児が前向きになれる。素晴らしいと思った」と振り返る。

会場に並ぶのは、15事業者の計150種類で、病児がおしゃれを楽しめるような服や小物が中心。生まれつき耳が小さかったり欠けたりしている小耳症の子ども向けに作られた首の後ろでひもを結ぶマスクをはじめ、頭髮の脱毛を覆うための帽子や、胃ろうの子ども向けの胃液漏れ防止カバーもある。

胃液漏れ防止カバーは、病児向けグッズ製造販売会社代表の奥井のぞみさん（36）が開発した。10年前に長男が胃ろうになったとき、病院支給のガーゼでは量が足りず「繰り返し使え、子どもの気分が上向き商品を作りたい」と考えたという。

石嶋さんは病児ケア用品を扱うEC（電子商取引）サイトの運営会社「チャーミングケアモール」（大阪市）の社長を務めており、神戸マルイ（神戸市）で9～11日まで開く今回の展示販売は、こうした様々な病児向けグッズがあることを一般の人にも知ってもらうのが狙いだ。

石嶋さんは「現在は新型コロナウイルス禍で病児の家族にも余裕がなく、周囲の支えが必要だ」と強調。「病気の子どもの見た目や家族のメンタルケアの重要性を知ってもらうために、今後は他の地域での開催も検討していきたい」と話している。（川野耀佑）



耳にひもをかけずに着けられる小耳症の子ども向けマスク（石嶋瑞穂さん提供）